

あしよろ・ハードサポート通信

◆ 血乳を考える



写真) 牛の出し入れは、おだやかに



写真) 分娩前の母牛



写真) 酸化されてサビた鉄の部品

足寄町内を巡回している中で、血乳の相談をとても多く受けます。血乳は、はっきりとした原因がわかっておらず、これといった特効薬や治療法も少ないので対処が難しい症状のひとつです。

血乳には大きく2パターンあります。ひとつは外傷性、つまりケガが原因の血乳で、泌乳ステージに関わらず発生します。壁や柱など施設にぶつかる、転ぶ、踏まれる、などによって乳房内で出血し、血乳になるパターンです。このケースでは、ぶつかりやすい場所をなくす、牛を動かすときに慌てさせない、すべり止め、など、ケガをさせないような工夫が必要です。

ふたつ目は、分娩後の血乳です。こちらは周産期の管理が大きく影響します。

分娩前の母牛は胎児を育てることに加えて、乳房や乳腺組織を発育させて泌乳開始の準備を進めています。これにはたくさんのエネルギー代謝が必要です

このエネルギー代謝に使われるのが酸素で、その燃えカスとして「活性酸素」という物質ができます。活性酸素は体内に侵入した細菌を酸化させて撃退するはたらきを持っていますが、その攻撃力はとても強く、過剰になると自分の体まで酸化させてダメージを与えてしまう性質を持っています。酸化された体は、鉄の部品がサビていくように傷んでいき、老化や疾病を呼びやすくなります。

分娩して泌乳が始まると、乳房内を流れる血流量は急激に多くなります。乳房の血管が酸化ストレスを受けてサビつき、もろくなっていると、血管から血液が漏れ出てきて、血乳につながってしまいます。

このような体のサビつきを緩和する抗酸化剤のひとつにビタミンEがあります。乾乳後期にビタミンEを充分量給与することで酸化ストレスが緩和し、結果的に血乳の軽減につながります。ビタミンEには免疫機能を強化するはたらきもあるため、乳房浮腫や分娩後乳房炎、後産停滞の抑制効果があることもわかっています。

推奨給与期間 : 乾乳後期(分娩前21日間)
推奨給与量 : ビタミンEとして3,000~4,000IU/日給与

このほか、銅、亜鉛、マンガン、鉄、セレンなどのミネラル給与も効果的です。ただし、ビタミンEやミネラルを与えるだけで血乳がなくなるわけではありません。乾乳期間の適切なボディコンディション、快適な施設環境や飼養密度、嗜好性の良い粗飼料給与と適切な栄養バランスなど、基本的な飼養管理が整っていることが前提になります。

分娩後の血乳は、その牛の乾乳期管理に何かエラーがあったというサインです。血乳の治療と合わせて、農場の乾乳期管理を見直す機会にさせていただけたらと思います。

.....

これからの季節は乳房炎になりやすい時期です。8月には NOSAI の先生を講師に乳房炎の勉強会を開催していただく予定になっています。日程が決まり次第、ご連絡します。どうぞお気軽にご参加ください。

.....

- 連絡先
- ・ JA 営農部 (電話)
 - ・ 村上 : (携帯) 090-6264-6571、(Email) murakami@herdsupport.com
 - ・ 久富 : (Email) hisatomi@herdsupport.com
 - ・ ハードサポート(株) : (FAX) 011-261-8101

8月の足寄での業務予定日 村上、久富 : 8/10 ~ 8/29
※日程変更になることもあります、ご了承ください。